
短編 2

三木拓矢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編2

【Nコード】

N7226N

【作者名】

三木拓矢

【あらすじ】

彼女に嫌いだと言われた。

そんなことを言われたら僕だって照れてしまう。

僕は彼女に答える。

「僕と君は付き合っていないけどね」

「ワタシはあなたが嫌いなもの」

彼女はそう言って笑った。

なぜなんだい？と僕は尋ねる。

「それくらい自分で考えなさいよ」

そんなことを言われたが僕の頭では考えたところで彼女の答えにはたどり着けないと分かっているので数秒考えたふりをした後僕は彼女に再度聞いた。

「だってあなた、分けが分からないんですもの」

分けが分からないと言われてもそれこそ分けが分からない。

「あなたの考えはワタシの考えとはそもそも違うし、ワタシの考えはあなたの考えとはそもそも違うのよ」

確かに僕は彼女の考えが分かった例がない。

今でもなぜ彼女がそのことを別れの理由に使ったのか分からない。

僕としては彼女の考えが分からずとも別にどうでもいいことだと思うのだがどうやら彼女にとっては大事なことのようだ。

「だからワタシはあなたが嫌いなもの」

そんなに嫌い嫌いと呼べたら流石の僕でもいくらか照れてしまふ。

「別れましようよ」

彼女は笑顔で言い放つ。

僕は答える。

「僕と君は付き合っていないけどね」

（後書き）

見たあなたは今ごろ　？となっているのではないのでしょうか？
…　なんとなく一番最後の彼のセリフが相応しくない気がしてならない。
まあそれは一応おいておいて

少し矛盾が多い話ですが　設定としては彼女は基本的な考えですが、彼の方は分けが分からない存在という設定です。

次の短編は明るくいこうかなと考えてます。

もしかしたら彼のセリフに修正が入る、かも

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7226n/>

短編 2

2010年10月10日02時25分発行